

8 芸術・文化、スポーツ

(1) 概況	8-1
(2) 芸術・文化	8-2
① 芸術・文化に触れる環境や施設の利用環境についての市民の評価	
② 施設の利用状況と市民の満足度	
③ 施設の整備	
④ 楽都	
⑤ 劇都	
⑥ せんだい・宮城フィルムコミッション	
(3) スポーツ	8-7
① 本市のスポーツ施策についての市民の評価	
② 運動を行う人の割合	
③ 施設の利用状況と市民の満足度	
④ 国際・全国規模のスポーツイベント	
⑤ プロスポーツ	

8 芸術・文化、スポーツ

- ・本市の人口 10 万人あたりの公立ホール施設数や座席数は政令市の中でも上位であり、芸術・文化に親しめる環境や芸術・文化の振興に関する施策に対する市民の評価も高い。一方、文化施設の利用のしやすさについては「満足」と「不満」とする割合が同程度である（「仙台市施策目標調査」から）。また、音楽の大規模ホール、専門機能を備えた施設の不足や既存施設の老朽化が指摘されており、財政状況が悪化する中、文化・芸術活動のための場の確保が課題となっている。
- ・本市では市民が主体となって運営したり、ボランティアとして参加する文化活動が盛んである。楽都を代表するイベントである定禅寺ストリートジャズフェスティバル、仙台クラシックフェスティバル、仙台国際音楽コンクールは参加者や観客数が増えており、運営に係わるボランティアの数も多い。また、本市には 40 を超える劇団があり、活発な演劇活動が行われている。
- ・本市のスポーツ施策についての評価は高く、定期的に運動を行う人の割合が高まってきており、市設置のスポーツ施設の利用者数も増えてきている。一方、スポーツ施設の利用のしやすさについての満足度は低い（「仙台市スポーツに関するアンケート調査」、「仙台市スポーツに関する意識調査」、「仙台市施策目標調査」から）状況である。
- ・市民のプロスポーツへの関心は高く、また、経済効果も大きい。
- ・本市の文化イベントやせんだい・宮城フィルムコミッションを通じた映像制作支援、国際・全国規模のスポーツイベント、プロスポーツは、県内外からの集客による経済波及効果や賑わいの創出、情報の発信力など、シティセールスや都市のブランド力向上の観点からも本市への貢献が期待できる。

（１）概況

仙台市の都市の強みの一つとして、芸術・文化の創造的活動や、都市アミューズメント的な存在としてのプロスポーツ、シティセールスにつながる国際スポーツ大会、国際音楽コンクールなどの開催が挙げられる。また、芸術・文化の創造性を活かした新しい都市の個性と活力の創出が施策の方向性の一つとして挙げられる。

[8-1 表] 仙台市の文化・スポーツ環境の主な変化(平成 10～20 年度)

	文化	スポーツ
平成 10 年度	・ 仙台文学館開館	・ 青葉体育館・仙台市武道館開館
平成 11 年度	・ 太白区文化センター開館	
平成 12 年度	・ せんだいメディアテーク開館	・ シェルコムせんだい開館
平成 13 年度	・ 第 1 回仙台国際音楽コンクール開催 ・ 第 1 回仙台劇のまち戯曲賞創設（隔年募集）	・ 新世紀・みやぎ国体開催 ・ ベガルタ仙台 J1 昇格
平成 14 年度	・ せんだい演劇工房 10-BOX 開館	・ ワールドカップサッカー開催

平成 15 年度	・ せんだい・宮城フィルムコミッション設立	・ 第 1 回仙台カップ・国際ユースサッカー大会開催(毎年開催) ・ ベガルタ仙台 J2 降格
平成 16 年度	・ 第 2 回仙台国際音楽コンクール開催	・ 仙台 89ERS 誕生 ・ 東北楽天ゴールデンイーグルス誕生
平成 17 年度		・ 第 23 回全日本大学女子駅伝開催 (17 年度より本市で毎年開催。)
平成 18 年度	・ 第 1 回仙台クラシックフェスティバル開催(毎年開催)	・ 第 5 回日本バドミントンジュニアグランプリ開催(18 年度より本市で毎年開催。)
平成 19 年度	・ 第 3 回仙台国際音楽コンクール開催	・ 新田東総合運動場(元気フィールド仙台)開場
平成 20 年度	・ 仙台シネマ認定制度創設 ・ 杜の都の演劇祭開催	

(2) 芸術・文化

① 芸術・文化に触れる環境や施設の利用環境についての市民の評価

「平成 20 年度仙台市施策目標調査(市民アンケート)」によると、仙台市の魅力として、「音楽や演劇、美術など芸術・文化に親しめる環境」に「非常に魅力を感じる」、「どちらかといえば魅力を感じる」とした人の割合が合わせて 54.7%であった。一方、「どちらかといえば魅力を感じない」、「全く魅力を感じない」とした人の割合が合わせて 31.0%であった。直近 5 年間の経年変化は下記のとおりであり、現状の環境に対し半数以上の割合の市民が魅力と捉えている。

[8-2 表] 芸術・文化に親しめる環境についての評価

	H16	H17	H18	H19	H20
非常に「魅力を感じる」＋「どちらかといえば魅力を感じる」	58.5%	51.6%	53.4%	53.2%	54.7%
「どちらかといえば魅力を感じない」＋「全く魅力を感じない」	30.1%	36.4%	34.5%	32.7%	31.0%

また、同アンケートにおいて、仙台市の 43 の分野別施策のうち「芸術や文化の振興」の評価度は平成 20 年度は 28.2 で全体の 8 位であった。直近 5 年間の評価度の経年変化は下記のようになっており、平成 17 年に評価が低下したものの、近年は評価が高くなってきている、といえる。

[8-3 表] 「芸術・文化の振興」の評価度

	H16	H17	H18	H19	H20
評価度	25.7	17.2	21.1	23.9	28.2

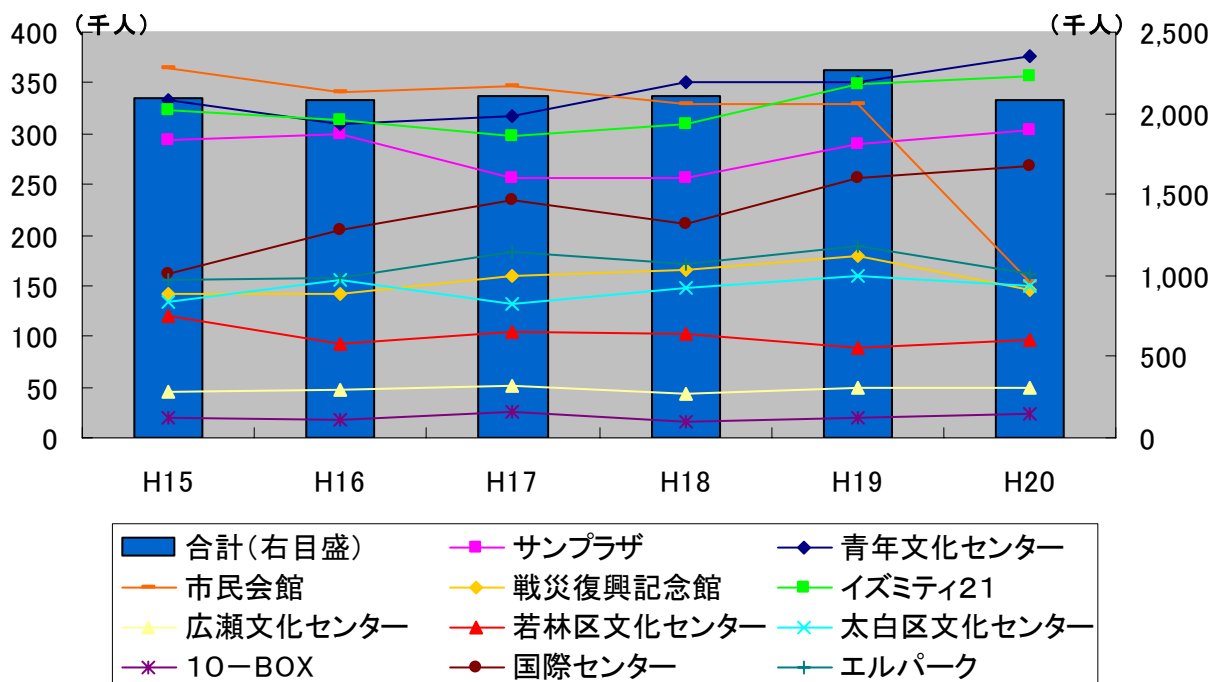
評価度＝（「非常に評価する」＋「どちらかといえば評価する」）－（「どちらかといえば評価しない」＋「全く評価しない」）÷標本数

出典：企画市民局 「仙台市施策目標調査報告書」

② 施設の利用状況と市民の満足度

文化センター等の市の文化施設（サンプラザ（ホール）、青年文化センター、市民会館、戦災復興記念館、イズミティ 21、広瀬文化センター、若林区文化センター、太白区文化センター、10-BOX、国際センター、エルパーク）の年間利用者数合計は平成 20 年度で約 209 万人となっている。

[8-4 図] 市の文化施設の年間利用者数



(注) 市民会館については、平成 20 年度に耐震改修工事を行ったため、19 年度までに比べ稼働日数が減少している。

※ 「企画市民局事業概要」を基に作成

「平成 20 年度仙台市施策目標調査（市民アンケート）」によると、「図書館や文化施設などの利用のしやすさ」に「満足」、「どちらかといえば満足」とした人の割合が合わせて 45.2%であった。一方、「どちらかといえば不満」、「不満」とした人の割合が合わせて 40.6%であった。また、直近 5 年間の経年変化は下記のとおりである。この質問項目の対象には図書館も入っているため一概には言えないが、施設利用のしやすさについては、「満足」と同程度の割合で「不満」と感じる市民が多い傾向が続いているといえる。

[8-5 表] 図書館や文化施設などの利用のしやすさについての満足度

	H16	H17	H18	H19	H20
「満足」＋「どちらかといえば満足」	46.3%	42.6%	45.8%	43.5%	45.2%
「どちらかといえば不満」＋「不満」	41.9%	45.1%	41.1%	41.5%	40.6%

出典：企画市民局 「仙台市施策目標調査報告書」

③ 施設の整備

ア 公立ホール・文化会館数

人口 10 万人当たりの公立ホール・文化会館の数（座席数 300 席以上の施設）1.07 館、座席数（全公立ホール・文化会館の座席数）とも、政令市の中では多い方（5 番目）である。

[8-6 表]人口 10 万人あたりの公立ホール・文化会館数、座席数

都市名	人口 10 万人 当たり館数	人口 10 万人 当たり座席数
札幌市	0.32 (18)	354.3 (18)
仙台市	1.07 (5)	1369.7 (5)
さいたま市	0.83 (14)	984.0 (11)
千葉市	0.74 (15)	644.8 (16)
川崎市	1.00 (7)	946.3 (13)
横浜市	1.01 (6)	823.5 (14)
新潟市	1.11 (4)	1267.2 (9)
静岡市	0.56 (16)	1450.9 (4)
浜松市	1.23 (3)	1273.1 (8)
名古屋市	0.84 (12)	1454.6 (3)
京都市	0.96 (10)	960.8 (12)
大阪市	0.45 (17)	558.3 (17)
堺市	0.84 (13)	681.2 (15)
神戸市	0.98 (9)	1323.0 (6)
岡山市	1.00 (8)	2305.9 (1)
広島市	1.29 (2)	1733.4 (2)
北九州市	1.32 (1)	1280.6 (7)
福岡市	0.90 (11)	1022.2 (10)

※（社）公立文化施設協会 HP データベースを基に作成(平成 21 年 4 月 1 日現在)

(注)（ ）内は指定都市間での順位。

人口 10 万人当たり館数は、座席数 300 席以上の施設を対象として算出している。

人口 10 万人当たり座席数は、座席数にかかわらず上記 HP 中のデータベース掲載施設を対象として算出している。

イ 大規模・専門的施設の不足、既存施設の老朽化

本市では大規模なホールや専門的な機能を備えた施設の不足、既存ホール施設の老朽化が指摘されているが、財政状況の悪化もあり、芸術・文化活動の場の確保が課題である。

④ 楽都

ア ジャズフェス、せんくら、国際音楽コンクール

「楽都」仙台を代表するイベントである定禅寺ストリートジャズフェスティバル(以下、「ジャズフェス」という)や仙台クラシックフェスティバル(以下「せんくら」という)、国際音楽コンクールの観客数及び出演・参加者数は年々増加しており、観客数(来場者数)はジャズフェスが75万人(平成20年度)、せんくらが4万人(同)、仙台国際音楽コンクールが4万9千人となっている。

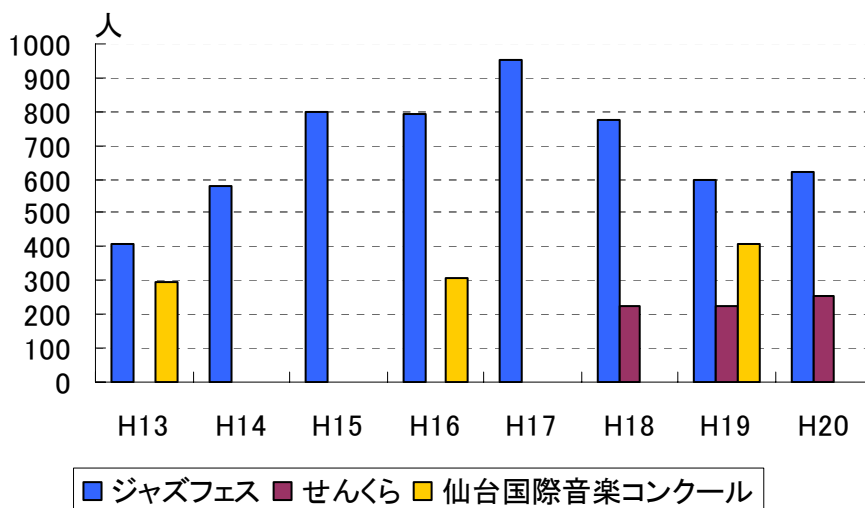
ジャズフェスは市民ボランティアが実行委員会をつくって運営を行っており、市民創造型イベントといえる。また、せんくらや国際音楽コンクールも多く市民協力ボランティアが運営をサポートしている。

[8-7 表] ジャズフェス・せんくら・仙台国際音楽コンクールの来場者・参加者数等 (人)

(年度)		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
ジャズフェス	観客数	45 万	45 万	54 万	56 万	63 万	71 万	72 万	75 万
	参加者数	3,358	3,455	3,558	4,008	3,921	4,123	4,432	4,442
せんくら	来場者数						3 万	3.8 万	4 万
	出演者数						500	580	660
仙台国際音楽 コンクール	来場者数	3.1 万			3.7 万			4.9 万	
	申込者数	300			310			322	

※ 各公式HP掲載データを基に作成

[8-8 図] ジャズフェス、せんくら、仙台国際音楽コンクールのボランティア数



(注) 仙台国際音楽コンクールは3年に1度の開催。

出典：企画市民局資料

イ 仙台フィルハーモニー管弦楽団

本市では、音楽文化の振興・発展を図り、芸術文化の向上に寄与することを目的として設立された仙台フィルハーモニー管弦楽団(以下「仙台フィル」という)の運営支援を行っている。

仙台フィルでは自主公演の開催や依頼演奏会への出演のほか、青少年のための音楽鑑賞教室など本市関連事業への出演、仙台ジュニアオーケストラの指導などを行っている。また、仙台国際音楽コンクールにおいては、ホストオーケストラを務め、コンクールの成功に貢献している。

⑤ 劇都

本市には 40 を超える劇団があり、活発な演劇活動が行われている。本市では、舞台芸術振興を目的として様々な「劇都事業」を(財)仙台市市民文化事業団と共催で実施している。

平成 14 年度には練習場や作業場・工房などを有した「せんだい演劇工房 10ーBOX」が卸町に開館した。利用者は毎年延べ 15,000～26,000 人を数え、演劇ワークショップによる人材育成や公演も行われている。

平成 13 年度には「仙台劇のまち戯曲賞」を創設し、隔年で全国から新作戯曲を募集しており、大賞受賞作品は演劇プロデュース公演として舞台化、仙台及び他地域での上演を行っている。平成 19 年度の第 4 回の募集では 99 作品の応募があった。

一般市民への演劇の認知度を上げることも課題であり、平成 20 年度からは市民に気軽に演劇に触れてもらうため、街中の飲食店などの空間を会場とした「杜の都の演劇祭」(演劇プロデュース公演と隔年で交互に開催。平成 18 年度までの「仙台演劇祭」を発展させたもの。)を開催している。平成 20 年度は 10 か所で 52 公演を行い、約 1,300 人の観客を集めた。

⑥ せんだい・宮城フィルムコミッション

宮城県を舞台にした映画やドラマなどの映像制作への支援の窓口を一本化して仙台・松島を中心とした宮城県の地域セールス、映像文化の振興、地域の活性化を図るため、平成 15 年度に本市、宮城県、松島町、仙台商工会議所、(社)宮城県観光連盟、(財)仙台観光コンベンション協会が構成団体となってせんだい・宮城フィルムコミッション(せんだい・宮城 FC)が設立された。主な活動として、ロケーション撮影への支援(ロケ候補地や各種許認可、宿泊施設等の情報提供、相談への対応、ロケハンなどへの同行案内、ロケ現場立会い、エキストラボランティアの手配協力等)、ロケーション撮影の誘致、地域への啓発・広報を行っている。

また、平成 20 年度には「仙台シネマ」認定制度を創設し、第 1 回作品として伊坂幸太郎氏原作の映画「重力ピエロ」を認定している。

[8-9 表] フィルムコミッション支援件数

年度	映画	TV 番組	CM	書籍・ビデオ等	問合・相談	合計
H15 年度	9(2)	42(32)	14(3)	6(5)	63	134(42)
H16 年度	14(2)	48(36)	15(4)	7(6)	82	166(48)
H17 年度	7(2)	32(27)	15(5)	20(14)	81	155(48)
H18 年度	12(7)	37(26)	10(4)	7(7)	77	143(44)
H19 年度	15(1)	44(38)	11(7)	11(8)	65	146(54)
H20 年度	19(3)	37(31)	10(7)	8(7)	56	130(48)
計	76(17)	240(190)	75(30)	59(47)	424	874(284)

(注)カッコ内は実際に撮影に結びついたもの(内数)。

出典：せんだい・宮城フィルムコミッション資料

(3) スポーツ

① 本市のスポーツ施策についての市民の評価

「平成 20 年度仙台市施策目標調査（市民アンケート）」によると、仙台市の 43 の分野別施策のうち、「イベント開催などによるスポーツの振興」の評価度は 36.6 で全体の 3 位であった。また、「身近にスポーツを実践できる環境の整備」の評価度は 15.4 で全体の 18 位であった。直近 5 年間の評価度の経年変化は下記のとおりである。

これらのことから、スポーツ施策について、「イベント開催などによるスポーツの振興」は高い評価を得ているといえるが、それと比較すると、「身近にスポーツを実践できる環境の整備」はやや低い評価であるといえる。

[8-10 表] スポーツ施策についての評価度

	H16	H17	H18	H19	H20
スポーツの振興	26.4	30.2	28.5	—	—
イベント開催などによるスポーツの振興	—	—	—	33.5	36.6
身近にスポーツを実践できる環境の整備	—	—	—	11.0	15.4

評価度 = (「非常に評価する」 + 「どちらかといえば評価する」) - (「どちらかといえば評価しない」 + 「全く評価しない」) ÷ 標本数

出典：企画市民局 「仙台市施策目標調査報告書」

② 運動を行う人の割合

スポーツ人口の増加や健康志向の高まりなどで、運動を定期的に行う人の割合は高まっており、「仙台市スポーツに関するアンケート調査」（15 歳以上 80 歳未満対象）によると、「週 1 回以上運動を行う人の割合」は平成 12 年、17、20 年でそれぞれ 32.0%、49.3%、55.4%となっている。

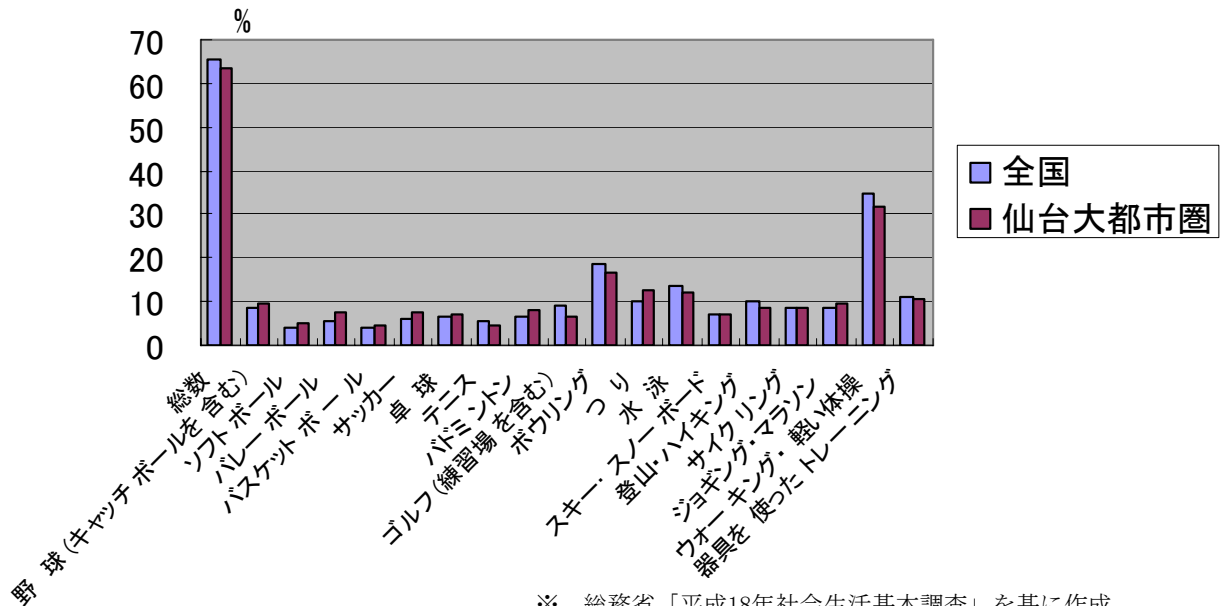
一方、総務省の行った「平成 18 年社会生活基本調査」によると、1 年間に何らかのスポーツを行った人の割合（スポーツ行動者率）を種類別に見た場合、ウォーキング・軽い体操、ボウリング、つり、水泳などが上位となっている。

[8-11 表] 週 1 回以上運動を行う人の割合

	H12	H17	H20
週 1 回以上運動を行う人の割合	32.0%	49.3%	55.4%

出典：企画市民局 H12、H17 「仙台市スポーツに関するアンケート調査」、H20 「仙台市スポーツに関する意識調査」

[8-12 図] スポーツ行動者率(種類別、全国・仙台大都市圏)



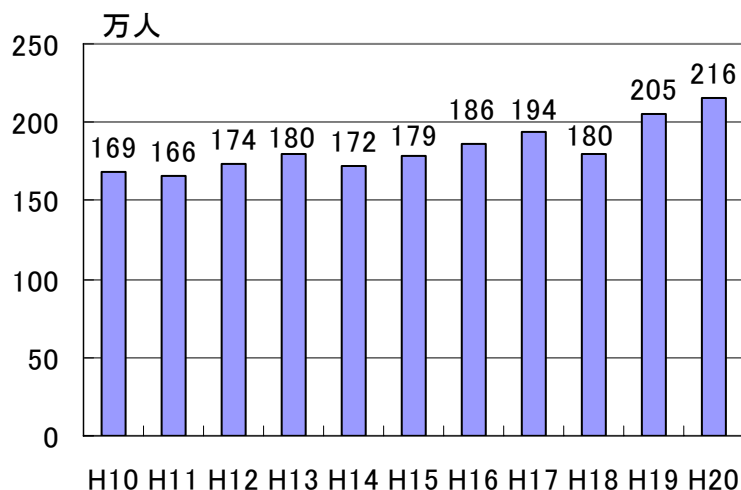
(注) スポーツ行動者率：10歳以上人口のうち、過去1年間にスポーツを行った人の割合。「スポーツ」には、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

仙台大都市圏：仙台市及び仙台市への通勤・通学者数(15歳以上)が常住人口の1.5%以上(平成12年国勢調査結果に基づく)であり、かつ仙台市と接続している市町村(周辺市町村という)により形成される圏域。ただし、仙台市への通勤・通学者の割合が1.5%未満であっても、仙台市または他の周辺市町村に囲まれている場合は、周辺市町村とする。

③ 施設の利用状況と市民の満足度

市設置のスポーツ施設利用者数は少しずつ増加しており、平成20年度は約216万人であった。

[8-13 図] 市設置のスポーツ施設利用者数



※ 「企画市民局事業概要」を基に作成

また、「平成20年度仙台市施策目標調査(市民アンケート)」によると、「(今お住まいのところの生活環境についての)スポーツ施設などの利用のしやすさ」について、「満足」、「どちらかといえば満足」とした人の割合が合わせて34.0%、「どちらかといえば不満」、「不満」と

した人の割合は合わせて 42.1%であった。直近 5 年間の経年変化は下記のとおりであり、自分が住んでいるところの環境のスポーツ施設などの利用のしやすさについては、差は縮小してきているものの、「満足」よりも「不満」と感じる市民の割合が高い傾向が続いているといえる。

[8-14 表] スポーツ施設などの利用のしやすさについての満足度

	H16	H17	H18	H19	H20
「満足」＋「どちらかといえば満足」	32.9%	31.9%	33.4%	34.0%	34.0%
「どちらかといえば不満」＋「不満」	46.6%	49.9%	45.7%	43.5%	42.1%

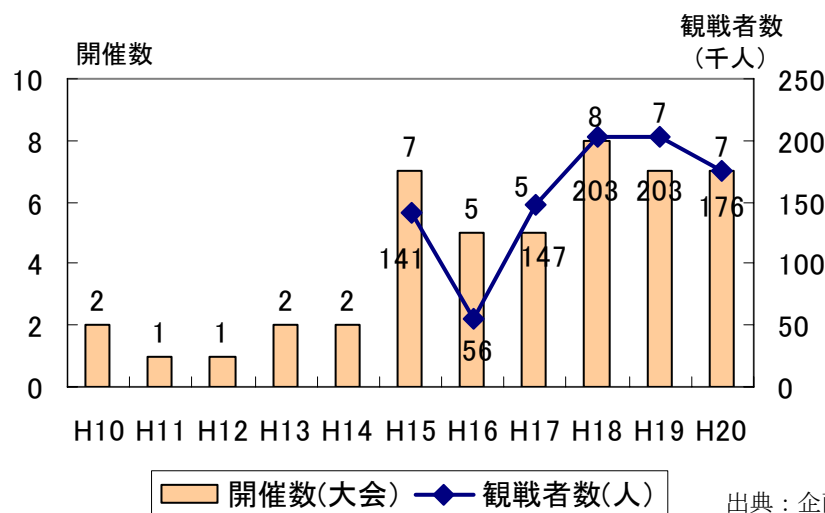
出典：企画市民局「仙台市施策目標調査報告書」

④ 国際・全国規模のスポーツイベント

国際・全国規模のスポーツイベントは、市民がスポーツに親しむことへの効果はもちろん、大きなシティセールス効果が期待できる。

本市は国際大会では仙台国際ハーフマラソン大会（平成 2 年度から開催）、仙台カップ国際ユースサッカー大会（平成 15 年度から開催）を毎年開催しており、国際大会の開催数・観戦者数も増加傾向である。

[8-15 図] 国際スポーツ大会開催数・観戦者数



また、国内全国大会では全日本大学女子駅伝対校選手権大会（杜の都駅伝）を平成 17 年度から毎年開催しているほか、日本バドミントンジュニアグランプリを平成 18 年度から開催している。

このほか、ソフトボール女子日本代表やラグビー日本代表の国際試合などを開催しており、平成 21 年度は日米大学野球選手権大会（第 3 戦）も開催している。

なお、一部の大会は全国的にも注目されており、全日本大学女子駅伝は全国ネットでテレビ中継されている。

⑤ プロスポーツ

ア プロスポーツへの市民の関心

「平成 20 年度仙台市施策目標調査（市民アンケート）」によると、「プロスポーツチームの存在」に「魅力を感じる」、「どちらかといえば魅力を感じる」とした人の割合が合わせて 72.9%、「どちらかといえば魅力を感じない」、「全く魅力を感じない」とした人の割合が合わせて 15.7%であり、プロスポーツチームの存在は仙台市の魅力の一つとして高く評価されているといえる。直近 5 年間の割合の変化は下記のとおりであり、年々プロスポーツチームの存在を魅力と捉える市民の割合が高まってきていることがうかがえる。

また、本市が平成 12、17、20 年度に実施したスポーツに関するアンケート調査においても、「年 1 回競技場でスポーツを観戦する人の割合」が平成 20 年は 47.6%と平成 12 年に比べ倍増しており、地元プロスポーツが市民に定着してきていると考えられる。

プロスポーツ観客動員数や 1 試合平均観客動員数の傾向については、野球が増加(平成 17 年～20 年)、バスケットボールが横ばい(平成 18 年～20 年)、サッカーが平成 19 年までは横ばいだが平成 20 年は減少(平成 16 年～20 年)となっている。

[8-16 表] プロスポーツチームの存在についての評価

	H16	H17	H18	H19	H20
「魅力を感じる」＋「どちらかといえば魅力を感じる」	50.2%	62.3%	62.1%	67.7%	72.9%
「どちらかといえば魅力を感じない」＋「全く魅力を感じない」	34.5%	26.6%	25.3%	18.6%	15.7%

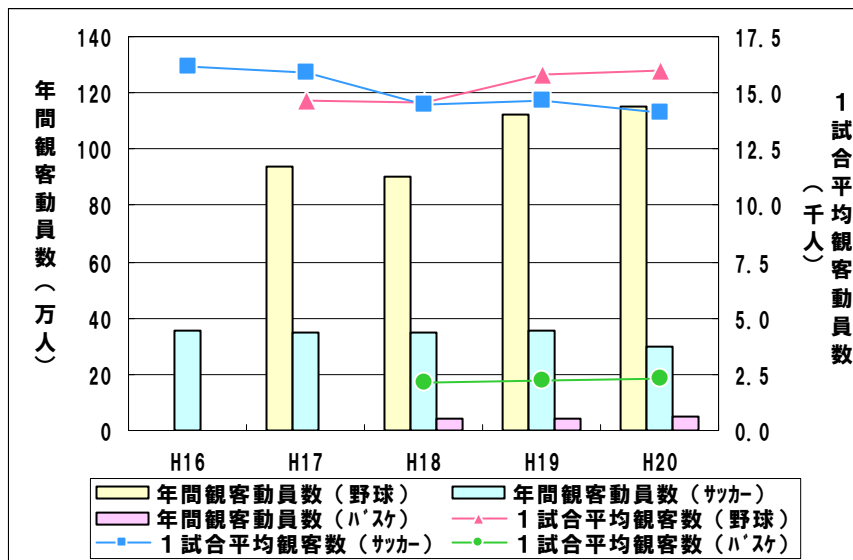
出典：企画市民局「仙台市施策目標調査報告書」

[8-17 表] 年 1 回以上競技場でスポーツを観戦する人の割合

	H12	H17	H20
年 1 回以上競技場でスポーツを観戦する人の割合	20.1%	31.8%	47.6%

出典：企画市民局 H12、H17「仙台市スポーツに関するアンケート調査」、H20「仙台市スポーツに関する意識調査」

[8-18 図] プロスポーツの観客動員数と 1 試合平均観客動員数(主催試合)



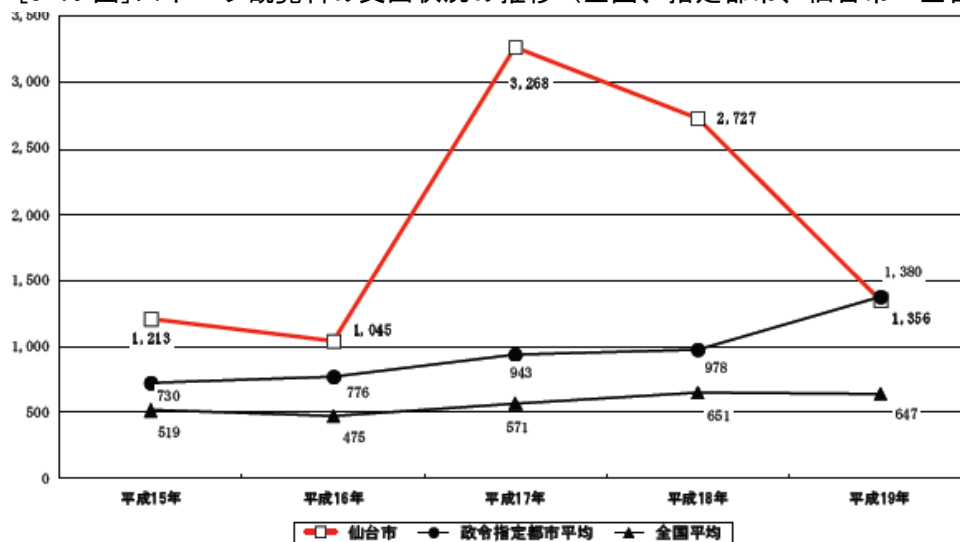
(注) 野球：東北楽天ゴールデンイーグルス
 サッカー：ベガルタ仙台
 バスケットボール：仙台 89ERS

※各主催者発表資料を基に作成

イ スポーツ観覧料支出状況の推移

「平成 19 年家計調査」(総務省)によれば、仙台市の世帯におけるスポーツ観覧料の支出は指定都市平均および全国平均を上回る水準で推移している。

[8-19 図] スポーツ観覧料の支出状況の推移(全国、指定都市、仙台市・全世帯)



出典：企画市民局 「統計時報」No. 257 (総務省「平成 19 年家計調査」結果)

ウ プロスポーツの経済波及効果

宮城県におけるプロスポーツの経済波及効果は、野球が 125 億円、サッカーが 23 億円、バスケットボールが 4 億円(宮城県発表。野球・サッカーは平成 20 年、バスケットボールは平成 19 年の金額)とされている。